



伊勢物語語原書
 一は物語と伊勢とつらふ事古流の思ふは物語の
 ことらるるもかたは伊勢の事とせよとていふは
 伊勢物語といふは業平将便と伊勢とつらふ事
 はありし事也事ハ物語の所なりとては昔あり云
 儀あり是と信するは結与将便札事と語上事
 本ありの事業平御時存心物といはれ物語の作者業
 平の流石同姓ある業平自記の事あり或は伊勢
 物語の事業平といふはありし事也物語の作者業
 平の流石同姓ある業平自記の事あり或は伊勢

43717
913.32
I

圖書印



卒とゆふまの黄門の心も仔細作とのくは物語の題
 一任親の作よと来りてと先年多用の
 南流石月と畢竟は物語の河津も
 物語の極めありしは内々業平自身は河津に
 一業平一和の事と書事ゆかりとて四方を以
 てふるまへりし所なりは物語の仔細也二条御所の
 中流しは物語の中なりとて又業平の後事と書
 候あり

十政の治
 此の物語のれはとては業平の事なり

秋を月圓と席の事也
 ケタイ 月圓 とりの事也

正作勢而後... 由... 内... 三... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

かりまゝのしるし...
 法日星のしるし...
 早亭 早亭情...
 東条...
 直中 天皇...
 真...
 京都...
 早亭...
 直中...
 真...
 京都...

まうのふもて
 幸
 二葉
 七月の十日
 人

二葉乃士
 漆
 男
 女

月夜にそよぐ風ありて
 静かなる心ありて
 思ふはあはれなる
 恋の心ありて
 月夜にそよぐ風ありて
 静かなる心ありて
 思ふはあはれなる
 恋の心ありて

月夜にそよぐ風ありて
 静かなる心ありて
 思ふはあはれなる
 恋の心ありて
 月夜にそよぐ風ありて
 静かなる心ありて
 思ふはあはれなる
 恋の心ありて
 月夜にそよぐ風ありて
 静かなる心ありて
 思ふはあはれなる
 恋の心ありて

あはれ... **業**... びり... **吉不得**... **津水**... **草**... **男**... **鬼**...

あはれ... **世**... **二**... **世**... **世**... **世**...

三三九の先 昭宣公
 三三九の内見書
 三三九の先 昭宣公
 三三九の内見書

三三九の先 昭宣公
 三三九の内見書

三三九の先 昭宣公
 三三九の内見書

三三九の先 昭宣公
 三三九の内見書

昔平陸を記し...
 素の...
 国...
 八ツ川...
 一モテ...
 不...
 一りて...
 揚...
 長...
 一...
 一...

昔平陸を記し...
 素の...
 八ツ川...
 一モテ...
 不...
 一りて...
 揚...
 長...
 一...
 一...
 一...
 一...

此の書は...
 一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

此の書は...
 一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

女のみつり... 真... 南... 勝...
 (Left page contains dense handwritten Japanese text in cursive style, with several characters highlighted in red ink.)

二月十日... 音男... 鳥...
 (Right page contains dense handwritten Japanese text in cursive style, with several characters highlighted in red ink.)

多岐達と相... 拾... 楳...
 男あり... 女あり...
 此特

心... 我... 母...
 此特

何事ともさういふ事さへせしは

心算書... 中... 事... あり

物... あり

心算書... あり

書初... あり

上... あり

若ト... あり

書... あり

業... あり

西のいづれかあやうかこのつねとらふてとて稀ありてふとて約はるる
わらわのいづれかあやうかこのつねとらふてとて稀ありてふとて約はるる
わらわのいづれかあやうかこのつねとらふてとて稀ありてふとて約はるる

今ふまされるは人まきりけり

女坂のいづれかあやうか

あつた所を敷平の敷けられぬスナリ
女坂のいづれかあやうかこのつねとらふてとて稀ありてふとて約はるる
わらわのいづれかあやうかこのつねとらふてとて稀ありてふとて約はるる

たふとこせ
女坂のいづれかあやうかこのつねとらふてとて稀ありてふとて約はるる
わらわのいづれかあやうかこのつねとらふてとて稀ありてふとて約はるる

業シニルナリ

あはれ小ありとありありと女の
かみゆりもあつらたことある物うと思

あはれ小ありとありありと女の
かみゆりもあつらたことある物うと思

あはれ小ありとありありと女の

あはれ小ありとありありと女の
かみゆりもあつらたことある物うと思

あはれ小ありとありありと女の

あはれ小ありとありありと女の

あはれ小ありとありありと女の

あはれ小ありとありありと女の

あはれ小ありとありありと女の

あはれ小ありとありありと女の

あはれ小ありとありありと女の

[The pages contain dense handwritten Japanese text in a cursive style (sōsho), likely a historical record or literary work. Red ink highlights and accents are used throughout. The text is organized into vertical columns on both pages, with varying line lengths and some overlapping characters. There are also some marginal notes and larger characters interspersed within the columns.]

あまのついでに...
朝の霧の...
あまのついでに...
あまのついでに...
あまのついでに...

あまのついでに...
あまのついでに...
あまのついでに...
あまのついでに...
あまのついでに...

情のふるこ 業のついで 伊勢物語 昔のうらみ 今も忘れぬ 伊勢物語 昔のうらみ 今も忘れぬ

あふれぬ 女の手 女の手 女の手 女の手 女の手 女の手 女の手 女の手

陽流 自観 十海 舟着 舟着 舟着 舟着 舟着 舟着 舟着 舟着

花よ 花よ 花よ 花よ 花よ 花よ 花よ 花よ

あはれ 男の 男の 男の 男の 男の 男の 男の

あふれ 禁中 禁中 禁中 禁中 禁中 禁中 禁中

あふれ 西 西 西 西 西 西 西 西

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすく

珠

流物ノサリ
元 詛

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ
おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

おとすくサリまついすかみんトサキコトサカサカ

可...
 男...
 女...
 田...
 長...
 男...
 女...

阿...
 男...
 女...
 田...
 長...
 男...
 女...

むしーおとこいさうとせしとせし

書年たせに 西麻

イモトシモ 五ノルカニ

おらけの横振の... 伊勢物語... 昔男あり... 伊勢物語の巻... 昔男あり... 伊勢物語の巻... 昔男あり... 伊勢物語の巻...

百字

千字文法

おらけの横振の... 伊勢物語... 昔男あり... 伊勢物語の巻... 昔男あり... 伊勢物語の巻... 昔男あり... 伊勢物語の巻...

又おとこ

吹風よしも... 伊勢物語... 昔男あり... 伊勢物語の巻... 昔男あり... 伊勢物語の巻... 昔男あり... 伊勢物語の巻...

昔男は...
 吉野ハヨシヤ...
 昔男は...
 昔男は...
 昔男は...

昔男は...
 昔男は...
 昔男は...
 昔男は...
 昔男は...

〜〜七かぶ小をえお〜〜男の技女乃
〜〜ヨルメムコト
ぬれて

さし〜夜か〜

〜〜男あり〜
〜〜

結月

〜〜男〜
〜〜

〜〜

〜〜
〜〜

〜〜

〜〜
〜〜

と見えりて女一あはれおとけりありて

はく人の目より何りて人か業志今公三吉田八吉等シタテ

公明は昔の人多くさう業志とあはれおとけりありて

法和心城水尾陰道

清和の御所の御道より御道より御道より御道より

と申

むし男はの目より知とてさうありて

行平守平仲平小

あはれおとけりありてありてありてありて

本小いささかありてありてありてありてありて

あはれおとけりありてありてありてありてありて

あはれおとけりありてありてありてありてありて

あはれおとけりありてありてありてありてありて

あはれおとけりありてありてありてありてありて

あはれおとけりありてありてありてありてありて

あはれおとけりありてありてありてありてありて

世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは
 世にれたる男の子の海に遠くへ行くかと思はれしは

花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは
 花の名をわすれしは

其の通り過りては...
 我より...
 男...
 あり女...
 寺八拾遺...
 大宮...
 伊勢...
 芳男...
 て...
 け...
 松...
 芳...
 去...

上高席の心算は...
 女...
 又木...
 伊勢物語...

伊勢物語...
 万目...
 伊勢物語...

Handwritten manuscript in Kuzushiji (old Japanese script), likely a genealogical record or historical document. The text is densely packed across multiple columns and includes several prominent names written in red ink. Key names and characters include:

- 芳田** (Yoshida)
- 山内** (Yamanouchi)
- 加茂** (Kamo)
- 西三** (Seisan)
- 大原** (Oohara)
- 長相** (Nagashō)
- 文徳** (Fumotoku)
- 女** (Onna - female)
- 氏** (Shi - family name)
- 月** (Tsuki - month)
- 天** (Ten - heaven)
- 地** (Chi - earth)
- 水** (Mizu - water)
- 火** (Hi - fire)

The script is highly stylized and characteristic of the Edo period. There are some marginalia and smaller characters interspersed throughout the main text.

元年八月入道同十四年薨 四十二

カンスイ

その山をのまよふ紀おしり
 らせかして西のほく羅道へ
 まりてのちまうとらう
 ほろまらまらとちか
 まりすしそいふふ
 娘よみこころ
 のちり第ス心
 てたたりり
 良相百光
 了見

馬和行幸

西三東良相

行幸の御事
 右馬御殿
 薨身御事
 三乗の御事
 良相百光
 了見

但法和ノ長トモ業ハヒトツトウニク

Handwritten text on the left page, including a vertical note on the left margin and main body text in cursive Japanese.

Handwritten text on the right page, including a vertical note on the left margin and main body text in cursive Japanese.

いと面白くはしむるすまじき御事なり神事有
 の花の在りしを...
 七葉の位見觀十四年...
 業の...
 早下...
 業の...

芳おもしろくたりの家...
 人ありあり...
 七葉の位見觀十四年...
 業の...
 早下...
 業の...

Handwritten text at the top of the left page, partially obscured by a decorative border.

Main handwritten text on the left page, written in cursive style. Includes several red annotations and a vertical note on the right side of the page.

Main handwritten text on the right page, written in cursive style. Includes several red annotations and a vertical note on the left side of the page.

その肩にまらしかるは
 まかり
 ぼろくろくは
 探
 母の白くまの本小結上中下校
 を打てらるるは
 業
 風を恨むるは
 美
 おりては
 其のよ小何のさし
 小月音
 酒とのこ
 小月音
 小月音

量
 おりては
 其のよ小何のさし
 小月音
 酒とのこ
 小月音
 小月音

江戸の事... 早稲... 運路... 東洋... 船... 海...
 天ノ下ハモヨソナリ... 運路... 東洋... 船... 海...
 江戸の事... 早稲... 運路... 東洋... 船... 海...
 天ノ下ハモヨソナリ... 運路... 東洋... 船... 海...
 江戸の事... 早稲... 運路... 東洋... 船... 海...
 天ノ下ハモヨソナリ... 運路... 東洋... 船... 海...
 江戸の事... 早稲... 運路... 東洋... 船... 海...
 天ノ下ハモヨソナリ... 運路... 東洋... 船... 海...

イトキユエ 道世のふとくみキユト

ありし月よあつて さまんをな

あつての月のあつての月... の何れも... ありし月よあつて... さまんをな... ありし月よあつて... さまんをな...

朝野と... 恒武自壬寅秋三年九月

そこの... 早下祠之 恒武自壬寅秋三年九月

芳男ありけり... 恒武自壬寅秋三年九月

実より... 恒武自壬寅秋三年九月

人あり... 恒武自壬寅秋三年九月

あはれなる心ありありとありては神の御心
 七月の月ありありとありては神の御心
 文はつとありありとありては神の御心
 こゝろにありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心

七月の月ありありとありては神の御心
 文はつとありありとありては神の御心
 こゝろにありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心

ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心
 ありありとありては神の御心

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header, written in a dense, cursive style.

Main handwritten text on the right page, written in a cursive style. Includes several red ink annotations and corrections.

Main handwritten text on the left page, written in a cursive style. Includes several red ink annotations and corrections.

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, with several red ink annotations and a vertical signature on the right side of each page. The text is densely written and includes various characters and symbols.

業ニケケユトモ
 昔男カハ、
 ひげアリクニ、
 ありもむあ七思おもえし男ありし代へ

よめあり
 又藤よそをよめをえん...
 心いふれぬ...
 ちりー男女ある...
 業ニケケユトモ

コシヨコニヤルヨシニキルもまふメルトモ
 ケットカカレヨサリ
 ヲソキカケルヲ

中より〜
 物あり〜
 かく〜
 と〜
 こ〜
 し〜
 業ニケケユトモ

此書は... 伊勢物語... 忠仁公... 天女... 九年... 二月... 十九日... 大海... 五十一... 第一... 忠仁公... 天女... 九年... 二月... 十九日... 大海... 五十一... 第一...

伊勢物語... 忠仁公... 天女... 九年... 二月... 十九日... 大海... 五十一... 第一...

忠仁公... 天女... 九年... 二月... 十九日... 大海... 五十一... 第一...

天女... 九年... 二月... 十九日... 大海... 五十一... 第一...

九年... 二月... 十九日... 大海... 五十一... 第一...

二月... 十九日... 大海... 五十一... 第一...

十九日... 大海... 五十一... 第一...

大海... 五十一... 第一...

五十一... 第一...

第一...

世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり

世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり
 世に親族ト云リカウハニ位テモ
 よきことなり

う積んすまの物ア〜
 母の心〜
 芳男〜
 芳女〜
 芳子〜
 芳太郎〜
 芳次郎〜
 芳三郎〜
 芳四郎〜
 芳五郎〜
 芳六郎〜
 芳七郎〜
 芳八郎〜
 芳九郎〜
 芳十郎〜
 芳十一郎〜
 芳十二郎〜
 芳十三郎〜
 芳十四郎〜
 芳十五郎〜
 芳十六郎〜
 芳十七郎〜
 芳十八郎〜
 芳十九郎〜
 芳二十郎〜

母の心〜
 芳男〜
 芳女〜
 芳子〜
 芳太郎〜
 芳次郎〜
 芳三郎〜
 芳四郎〜
 芳五郎〜
 芳六郎〜
 芳七郎〜
 芳八郎〜
 芳九郎〜
 芳十郎〜
 芳十一郎〜
 芳十二郎〜
 芳十三郎〜
 芳十四郎〜
 芳十五郎〜
 芳十六郎〜
 芳十七郎〜
 芳十八郎〜
 芳十九郎〜
 芳二十郎〜

[Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), featuring extensive use of red ink for emphasis and decorative elements. The text is densely packed across two pages.]

[Red ink annotations and characters scattered throughout the pages, including vertical labels like '心入るハナリ' and '業ノヨシ'.]

下トキナリタリニキルキル
 一ノキルキルニキルキル
 二ノキルキルニキルキル
 三ノキルキルニキルキル
 四ノキルキルニキルキル
 五ノキルキルニキルキル
 六ノキルキルニキルキル
 七ノキルキルニキルキル
 八ノキルキルニキルキル
 九ノキルキルニキルキル
 十ノキルキルニキルキル
 十一ノキルキルニキルキル
 十二ノキルキルニキルキル
 十三ノキルキルニキルキル
 十四ノキルキルニキルキル
 十五ノキルキルニキルキル
 十六ノキルキルニキルキル
 十七ノキルキルニキルキル
 十八ノキルキルニキルキル
 十九ノキルキルニキルキル
 二十ノキルキルニキルキル
 二十一ノキルキルニキルキル
 二十二ノキルキルニキルキル
 二十三ノキルキルニキルキル
 二十四ノキルキルニキルキル
 二十五ノキルキルニキルキル
 二十六ノキルキルニキルキル
 二十七ノキルキルニキルキル
 二十八ノキルキルニキルキル
 二十九ノキルキルニキルキル
 三十ノキルキルニキルキル
 三十一ノキルキルニキルキル
 三十二ノキルキルニキルキル
 三十三ノキルキルニキルキル
 三十四ノキルキルニキルキル
 三十五ノキルキルニキルキル
 三十六ノキルキルニキルキル
 三十七ノキルキルニキルキル
 三十八ノキルキルニキルキル
 三十九ノキルキルニキルキル
 四十ノキルキルニキルキル
 四十一ノキルキルニキルキル
 四十二ノキルキルニキルキル
 四十三ノキルキルニキルキル
 四十四ノキルキルニキルキル
 四十五ノキルキルニキルキル
 四十六ノキルキルニキルキル
 四十七ノキルキルニキルキル
 四十八ノキルキルニキルキル
 四十九ノキルキルニキルキル
 五十ノキルキルニキルキル
 五十一ノキルキルニキルキル
 五十二ノキルキルニキルキル
 五十三ノキルキルニキルキル
 五十四ノキルキルニキルキル
 五十五ノキルキルニキルキル
 五十六ノキルキルニキルキル
 五十七ノキルキルニキルキル
 五十八ノキルキルニキルキル
 五十九ノキルキルニキルキル
 六十ノキルキルニキルキル
 六十一ノキルキルニキルキル
 六十二ノキルキルニキルキル
 六十三ノキルキルニキルキル
 六十四ノキルキルニキルキル
 六十五ノキルキルニキルキル
 六十六ノキルキルニキルキル
 六十七ノキルキルニキルキル
 六十八ノキルキルニキルキル
 六十九ノキルキルニキルキル
 七十ノキルキルニキルキル
 七十一ノキルキルニキルキル
 七十二ノキルキルニキルキル
 七十三ノキルキルニキルキル
 七十四ノキルキルニキルキル
 七十五ノキルキルニキルキル
 七十六ノキルキルニキルキル
 七十七ノキルキルニキルキル
 七十八ノキルキルニキルキル
 七十九ノキルキルニキルキル
 八十ノキルキルニキルキル
 八十一ノキルキルニキルキル
 八十二ノキルキルニキルキル
 八十三ノキルキルニキルキル
 八十四ノキルキルニキルキル
 八十五ノキルキルニキルキル
 八十六ノキルキルニキルキル
 八十七ノキルキルニキルキル
 八十八ノキルキルニキルキル
 八十九ノキルキルニキルキル
 九十ノキルキルニキルキル
 九十一ノキルキルニキルキル
 九十二ノキルキルニキルキル
 九十三ノキルキルニキルキル
 九十四ノキルキルニキルキル
 九十五ノキルキルニキルキル
 九十六ノキルキルニキルキル
 九十七ノキルキルニキルキル
 九十八ノキルキルニキルキル
 九十九ノキルキルニキルキル
 百ノキルキルニキルキル

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, likely a diary or personal account. The text is densely packed and spans across multiple lines on both pages. There are several red ink marks, possibly indicating specific dates or important events. The right page has a vertical column of text on the far right edge. The left page has a vertical column of text on the far left edge.

業の記帳

